

秩父別町認定こども園くるみ
令和2年度 こども園自己評価

保育、教育理念

地域、親とともに子どもが未来に向かってたくましく生きる力を育む

保育、教育方針

生きる力の基礎を培い、豊かな人間性の育成を目指す

保育目標

☆心もからだも健康な子

- ・げんきな子
- ・がんばる子
- ・やさしい子
- ・かんがえる子

令和2年度の当こども園の保育・教育の振り返り

「保育所保育指針」をもとに、上記の保育、教育方針にあるように、子どもの生きる力の基礎を培い豊かな人間性を育む保育や教育を目指した。

発達年齢に沿った発達の連続性の意図を基盤として、「遊び」の中で子どもの自主性を育みつつ内的発展がみられるように職員共通理解を図り保育にあたった。引き続き、0歳から就学前の子どもに連続性のある保育・教育を行うため、保育者個々がまた、保育者集団として、このことに日々子どもと寄り添い歩み、成長を促していきたい。

〇令和2年度は、様々な体験や経験を通して体力や知力を培う保育に力を入れた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、保育内容、行事など中止や延期せざるを得ない状況でその都度、担任や担当、それぞれの保育者が工夫し、アイデアを出しあい、取り組む中で子どもたちも遊びや活動ができ、自然とのふれあい、協同的な学びの機会も子どもたちに提供できた。

〇乳児保育、3歳未満児保育では、一人ひとりの生活リズムに合わせ、ゆったりとした保育を心がけた。また、応答的保育を基本に実践し、子どもの心のよりどころとして子どもの要求や欲求を十分理解し適切に対応するよう努めた。一人ひとりの子どもを把握し、発達課題を計画的に組み込み、見通しをもち保育にあたった。

〇3歳以上児の保育においては、一人ひとりの要求に応じ、子どものあるがままを受け入れ対応するようにしてきた。季節にあった遊びは実施できたが、リズム遊び、歌など様々なものに触れる機会、表現遊び、製作など、保育内容のバランスが課題となった。

〇戸外では、屋内遊戯場ちっくるや屋外遊戯施設キュービックコネクションなどに出向き、子どもたちが安全に元気にいっぱい遊べる心と体を作れるよう、思う存分体を動かすことによって体力の向上も図ることができた。

〇特別な支援を必要とする子どもたちへのかかわりについて、保育者は主体的に子どもに関わり、保育者間の話し合いの時間も大切にしたい。専門的知識を習得し、さらに子どもに必要な保育を丁寧に伝える。保護者とは登降園時、日常的な会話に加え、必要時に話し合いの場を設けるようにしていきたい。また、町福祉関係課、町保健師、児童相談所、北空知療育センター、小学校など各機関との相談、連携が滞ることなく出来ているので、新年度においても継続したい。

〇行事では、日々の生活や遊びから発展できるように心掛けてきた。季節感や伝統的行事などは、計画に取り入れていたが、新型コロナウイルス感染防止の為、できなかったものもある為、状況を把握し、各行事の目的と意義、成果と課題をしっかりと把握、見極めたい。子ども達の成長を子ども達、保護者、保育者、地域の方々みなで喜びあうまではならず残念であったが日々の掲示板やたよりを通して発信した。また、キッズ英会話、水泳教室については、それぞれに、子ども達の喜ぶ姿、習得する姿、成長する姿を見ることができ非常に有意義ととらえており、新年度においても時期、内容等確認打合せをしたうえで継続実施することとした。新型コロナウイルスの終息のめどが立たない為、子どもの健康を優先し、行事有無、内容も慎重に協議検討していく。

○延長保育では迎えが来るまで楽しく過ごせるよう配慮してきた中で、疲れている子に対しゆっくり過ごせる配慮をしていく。
担当保育士への伝達（体調面など）を漏れなく行い、保護者に伝えるようにしてきたので、今後も引き続き同様な対応を図っていく。

○保健活動・安全管理については安全管理・衛生管理に努めてきた。
担当保育士と密に情報交換し、事故、けがのないよう互いが注意して、様子を見られるようにしてきた。
散歩時の交通事故防止の為、児童のカラー帽の着用で、運転する側への注意喚起、保育者は安全に子どもを見守る為の配慮に努める。
午睡時は3歳未満児へは午睡チェック表を用い突然死防止対応、3歳以上児も注意してみてきたので、同様に対応していく。

感染症の対応についても、研修受講及び嘱託医と連携を図り拡大防止に努める。
新型コロナウイルス感染症の対応については、保健所、嘱託医の指示を仰ぎ、町住民課、各関係機関担当者と相談、協議し園の運営を図り、手指消毒励行、園内の消毒作業や次亜鉛素酸空間除菌脱臭機の設置等衛生管理をし予防に努めた。終息までのめどは立っていない中、日々の保育や様々な行事についてもその都度、職員間で確認、対応を図っていく。
アレルギー食の配膳ミス防止の為、調理員、保育士が連携し細心の注意を払う。
また、職場内での職員の腰痛予防の研修も実施する。

○「こども園たより」などを用いて、日常の子どもの様子を保護者に伝える事ができ、また、こども園の保育、教育目標を保護者に伝え、保育教育方針を理解してもらえるように伝えてきた。
「保護者に見える保育」を心がけ、日々の取り組みや行事の様子を写真やメッセージ等で掲示、子どもの様々な姿、成長を保護者とともに共有できるようにした。
必要時には、保護者に電話連絡やおたより帳を通して、こども園での子どもの様子を伝え、また家庭での子どもの様子を保護者に教えていただきながら保育を行った。
新年度においても、保護者に「何かあったとき」だけでなく、日頃から保育士自ら挨拶をし、会話することで、緊密に連絡をとり信頼関係を築くよう配慮したい。
○早急に保護者、職員間の連絡をとる携帯メール配信システム、メールメイトの導入により、緊急に伝えたいメッセージなど伝える事が出来、情報の共有をスムーズに取ることができた。今後も引き続き活用したい。

○園開放事業は、主に保護者(地域の方も含む)を対象にしているが、今年度において開放日は中止とした。

○保護者からの要望、苦情の把握については、出された意見に対して十分検討し、必要なものについてはこども園の考え方を丁寧に示し説明を加えて理解を得られるよう努力を重ねる。
改善すべきことは、的確かつ迅速に修正する。

○地域で唯一の児童福祉施設であることを確認する中で、この地域で生まれ育つ子どもが地域の方々に見守られ成長していく事を認識し、地域の方々(ブロッコリー収穫、めえめえランドなど)や地域の施設等(消防署、郵便局、老人福祉施設、長寿をお祝いする会など)に訪問、来園し交流するなかで、感謝の思いを持ち、ともに生きていく事の大切さを伝えるように計画していたが、実施できなかったものもあり、新年度も新型コロナウイルスの状況を見ながら検討、実施したい。

○保小における幼児教育と小学校教育の円滑な接続に努めてきたが、新年度も引き続き対応していきたい。
また、令和元年度の卒園児については、教育委員会就学児童に係る打合せ会議において、小学校に保育要録を渡すとともに、卒園児担任と小学校、ちっぷっ子ふれあいスクールと引き継ぎを行い、連携を大切にすることができた。
新年度においても、さらに上記及び関係機関、担当者との連携を大切にしたい。

○子育て支援センターと連携し、園開放、地域の子育て家庭に、園の様子や行事を理解してもらっている。
しかし、担当、担任ともこども園の保育業務が主となる為、支援センターの機能、役割について、センターの職員任せになっている。包括的な支援のためには、より緊密な情報共有が必要であると捉えている。

○保育士としての資質向上に関して、研修計画に基づき、積極的に保育士としての専門研修を受講参加している。
それらを報告書として提出し、全職員の打合せ会議で報告、発表し、日常の保育に反映、共有するよう努めてきた。
しかし、研修の開催がコロナ禍において極端に減少した今年度、次年度は映像研修の受講にも積極的に参加できるよう設置機器を整えたい。
自己評価を踏まえ、施設内研修の実施も含め、職員の「学び」の機会と実践、園全体の資質の向上に努める。

○近年の在園児(特に3歳未満児)及び職員の増加により、他のクラスの子どもの状況や保育状況を全職員が速やかに把握するのが困難な事態となってきたが、職員がこども園の全体像も把握しておくことも必須と捉えているので、出欠確認表や緊急回覧、打ち合わせ会議などで職員それぞれが共通認識を図るよう対応してきた。引き続き確実な職員連絡体制を図っていききたい。
また、職員それぞれが、自らの責任を自覚し、行動できるよう努めていく。

これらの評価を踏まえ令和3年度においては職員一同、保育課程の再確認、さらなる養護と教育の向上と課題達成に努めたい。